

# えひめ 地域づくり協働体通信

今号では、西予市城川町遊子川で農家レストランを営んでいる企業組合遊子川ザ・リコピンズ代表辻本京子さんに取材しました。リコピンズが経営する「食堂ゆすかわ」は、毎週水曜日と第4日曜日の午前11時～午後2時までの限定で営業しています。おすすめのメニューは、美容と健康に良い「リコピン」を多く含んだ遊子川の特産品の「桃太郎トマト」を使用した「リコピンズ・ランチ」です。さらに、桃太郎トマトの加工品製造と販売に注力しており、西予市の「ふるさと納税」の返礼品としても活用されています。加えて、平成26年には「食堂ゆすかわ」が映画化され、遊子川地区の知名度向上と地域住民同士のコミュニティの活性化にもつながりました。本紙が皆さまの地域で活動される上で、ご参考になれば幸いです。

西予市城川町遊子川

キーワード：地元特産品の活用、映画撮影、地域コミュニティの活性化

## ★西予市城川町遊子川について

遊子川地区は、西予市の東部に位置し、周辺を美しい木々に囲まれた山村地域です。近年は、人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地区の人口は、約300人。高齢化率約60%となっています。今後、中山間地域を取り巻く状況は、厳しさを増す一方ですが、この地域を残すためにも遊子川地区は住民全体で地域づくりに積極的に取り組んでいます。



西予市城川町遊子川



食堂ゆすかわ

## ★「食堂ゆすかわ」とトマトの加工品について

代表者辻本さんが食堂を始めたのは、トマト農家が収穫するトマトの中に大き過ぎたり、赤くなり過ぎたりしてJAに出荷出来ないトマトが約1割出ます。そのトマトを活用し平成23年からトマト農家の女性を中心として女性グループが特産品開発事業に取り組みトマトの加工品作りを開始しました。完熟トマトの果汁を酢酸発酵し作った「トマト酢」をはじめトマト酢と地元の柚子果汁を使用したトマトズボンが完成し平成26年3月より販売を開始しました。トマト加工品の開発だけではなく、遊子川トマトの美味しさをもっとたくさんの方に伝えたい！トマトを使った料理やデザートも味わってほしい！という想いから飲食店をやろうということになり10年近く空き店舗になっているJAの施設を改修し平成26年4月「食堂ゆすかわ」をオープンしました。今では県内外から約3,000人来店しリコピンズメンバーとの交流を楽しんでいます。



リコピンズ代表の辻本京子さん

## ★「食堂ゆすかわ」の映画制作について

平成25年9月当時、遊子川公民館で主事をされていた方が、有名な映画監督をした人の講演を聞く機会があり、講演の中で、映画作品には、多くの人にメッセージを伝えるといった明確な目標があり、また様々な分野の専門家や地域住民が一丸となり取り組む必要があることを知り、規模は小さいが遊子川地区で映画制作は可能ではないかと検討したことがきっかけとなりました。平成26年映画撮影では、地域住民約100人が携わり、その後、地域住民同士のコミュニティの活性化や、遊子川の知名度向上にもつながりました。

## ★「桃太郎トマト」と「リコピンズ」について

Q. 辻本さんが栽培している「桃太郎トマト」のPRポイントは？

A. 主人と2人で約3,300本のトマトの苗を、標高600~700mの高地で山から流れ込む天然水を引き込んで栽培しています。昼夜の寒暖差が大きいため、甘みと酸味のバランスがとれた良質のトマトが採れます。また、「クロマルハナバチ」に受粉作業を任せることで化学農薬を使わず、有機質の自然農薬を使用しており、安心して食べられるトマトに仕上げています。

Q. 現在のリコピンズの組織形態と活動内容は？

A. 結成した平成26年当時は個人の集まりでしたが、平成28年に企業組合へ組織変更し、「企業組合 遊子川ザ・リコピンズ」として法人化しています。主な活動内容は、「食堂ゆすかわ」でトマトを中心とした食事の提供と、隣地にある加工場でトマトの加工品製造を行っています。一方で、メンバーの多くは、高齢であり、出勤日のサイクルを決めるローテーションが非常に難しいことから、現在営業している曜日は、毎週水曜日と第4日曜日となっています。ただ、事前に5名以上で予約をすれば、先述した日以外にも営業することが可能です。(要相談)



リコピンズのメンバー

## ★「食堂ゆすかわ」について

Q. 食事のメニューはどのようなものがあるのですか？

A. 日替わり定食の「リコピンズ・ランチ」をはじめ、農学博士でフードトレンドクリエイターのやのくにこ氏が監修した「トマトたっぷりキーマカレー」や、「トマトたっぷりハヤシライス」などもあります。



トマト キーマカレー

Q. 来店される方の客層はどのような方が多いですか？

A. 遊子川地区外から来店される方が多いです。これまでにテレビや新聞等のメディアに取り上げられ、徐々に知名度が高まってきていると感じています。ちなみに、取材依頼があれば全てOKしています！

Q. 混雑している時間帯は、おおよそ何時ごろですか？

A. 11時半~12時半ごろに多くの方にご来店いただいています。



メニュー

Q. 現在の課題や今後の希望などは？

A. 食材については、地元産のものを仕入れたいので少しでも農家の減少を抑えたいと思っています。今後、出張レストランやグリーンツーリズムなども検討してみたいと思います。

リコピンズ代表の辻本京子さんは、奈良県出身です。知り合いの方が、たまたま奈良県から西予市にいられてトマト農家さんを探されていたことがご縁で、平成14年に移住して来ました。今では、地元の方と協力しながら、地元産トマトを活用して、遊子川の地域活性化のために熱心に取り組まされています。

今回、本紙でご紹介しました遊子川での地域活性化に向けたこれらの取り組みが、愛媛県内各地域で活動されている皆さまのご参考になれば幸いです。

この情報誌の関係サイト/「えひめ地域づくり協働体」

Facebook

地域の活動情報の連絡先/この情報誌に関するお問合せ先

愛媛県企画振興部地域政策課

TEL: 089-912-2236 E-mail: [chiikiseisak@pref.ehime.lg.jp](mailto:chiikiseisak@pref.ehime.lg.jp)

(公財) えひめ地域政策研究センター

TEL: 089-926-2200 E-mail: [info@ecpr.or.jp](mailto:info@ecpr.or.jp)

# えひめ 地域づくり協働体通信

朝、夕の涼しさに秋の気配を感じる季節となりました。  
第4号では、西予市の遊子川地区と川津南地区の活動を紹介します。  
皆さまの地域活動の参考にしていただければ幸いです。



## 西予市遊子川地区

キーワード：交流人口拡大、地域連携・協働

地区の皆さんと遊子川を訪れたお客様の交流は  
自己紹介から始まりました



### ●地区を訪れたお客さまに遊子川の良さをアピール

6月6日、地域の良さを知ってもらうため、「遊子川グリーンツーリズム推進委員会」が実施したイベントに、地区外から約20名のお客さまが参加しました。地元女性を中心となり運営する食堂「ゆすかわ」で地元産品を使った昼食を味わった後、同地区で一番標高が高く、朝夕の寒暖差により、甘くて栄養価も抜群のトマトが収穫できるトマトハウスで苗の定植作業をしました。また、地区の名勝巡りや夜の堂鑑賞も行いました。当日は「遊子川もりあげ隊」の方々を中心となっておもてなしをし、皆さんと一緒に自己紹介、定植作業を行いながら交流を深めていました。

### ●住民参加による地区景勝地付近の清掃活動

西予市城川町と高知県との境界付近にある標高1,111mの雨包山あまつみやま。この山頂付近は、7月にかけてツルアジサイやヤマアジサイなど、珍しい植物を見ることが出来るエリアです。6月21日、「遊子川もりあげ隊」役員のボランティア約20名が参加し、登山口トイレ付近から展望台まで続く林道の草刈りを、日差しの強い中、額から汗を落としながら行いました。作業終了後は、「これで大勢の方が気持ちよく訪れていただけるようになった」と皆さん喜んでいました。

★詳しくは、遊子川もりあげ隊ホームページ  
(<http://yusukawamoriagetai.com>) をご覧ください。



林道の草刈りが行われ、山並みにエンジン音が響いていました

## ここがポイント 「遊子川もりあげ隊」の活動について

### Q「遊子川もりあげ隊」とはどのような組織ですか？

A 少子高齢化などで、このまま何もしなければ地域が立ち行かなくなるかもしれません。「遊子川もりあげ隊」は、こうした遊子川の現状を打破し、遊子川の明るい未来を築きあげることを目的として22年8月に設置された地域活性化組織です。会員は遊子川地区住民全員で構成され、住民主体の地域づくりに積極的に取り組んでいます。

### Q活動を始めてどのようなことが変わりましたか？

A 住民参加の総会で地域づくり活動を計画します。このため行事への住民の方の参加が増えました。そして「ここはこんなにした方がいいね」といった声が聞かれるようになり、これまでより積極的に参加にいただけるようになりました。

### Q活動を続けるための課題はどのようなことですか？

A 地区住民にできることには限りがありますので、地区外の方が参加できる地域づくりを考えています。



遊子川もりあげ隊 会長  
勇 眞喜男さん



地区の皆さんが参加する伝統行事、女性は炊き出しに大忙しでした

●地元小学生も参加し楽念仏踊りが行われました  
8月2日、西予市川津南地区にある西方寺で、西予市指定無形民俗文化財「川津南楽念仏」踊りが行われました。楽念仏踊りは、旧城川町内各地で行なわれていましたが、その多くが戦後廃止となりました。しかし、川津南地区では地区の皆さんの地道な活動により現在まで保存伝承されています。この踊りは今年亡くなられた方の法要に合わせて行われる念仏踊りで、揃いの衣装の大人が小学生達に鉦の使い方を手ほどきしながら、太鼓に合せ鉦を奏じていました。伝統文化を次代に残す地区の活動から、皆さんの地元に対する愛着心を感じました。

ここがポイント 川津南地区の伝統文化継承活動について

Q川津南地区での伝統文化継承活動組織についてご紹介下さい。

A「川津南やっちみる会」の組織の一つとして「川津南楽念仏保存伝承委員会」があり、平成23年度に国の文化芸術振興事業を取り組んだ際に発足した組織です。

Qどのような活動を行っていますか？

A念仏踊りは、特徴的で習得することが難しいと言われていたため、保存伝承委員会では、経験の浅い地域内の若者、小中学生、保育所児童等の練習機会を確保し、後継者の指導と育成に取り組んでいます。

Q伝統文化継承の難しさはどのようなことですか？

A過疎化による人口減少と、熟練楽士の高齢化に伴う後継者不足のため、念仏楽士の確保が難しいですが、数少ない地域の後継者と、特にI・Uターン者の理解と協力により継続できています

Qこれまで行ってきた活動を継続するためには？

A今後も川津南の持ち味であるコミュニティカを生かして、子どもからお年寄りまでみんなでこの地域と伝統行事を守っていききたいと思っています。



川津南楽念仏保存伝承委員会代表  
立山 裕二さん

「元気な集落づくり応援団マッチング事業」のご紹介



草刈りや清掃など  
集落環境の維持保全が  
できない！

地域の  
伝統行事等の継承が  
できない！



そんな集落をお手伝いします！

愛媛県では、急速な高齢化と人口減少により、草刈りや水路の清掃など集落環境の維持保全や、お祭り、運動会など地域の伝統行事等の継承が困難になりつつある集落とボランティアで応援したい民間企業・大学等（応援団：34社・団体）を結びつける「元気な集落づくり応援団マッチング事業」を実施しています。ご要望があれば、県地域政策課までお問合せ下さい。



運動会のお手伝い



草刈りのお手伝い

\* 詳細は、えひめ地域政策研究センターのHPをご参照ください。

愛媛の元気な集落づくり

この情報誌の関係サイト / 「えひめ地域づくり協働体」facebook

●発行 / 平成27年9月

●地域の活動情報の連絡先 / この情報誌に関するお問合せ先

愛媛県企画振興部地域政策課

TEL 089-912-2261

メール [chiikiseisak@pref.ehime.jp](mailto:chiikiseisak@pref.ehime.jp)

(公財)えひめ地域政策研究センター

TEL 089-926-2200

メール [info@ecpr.or.jp](mailto:info@ecpr.or.jp)